

農業体験の若者増加

県内の農家で長期間にわたり農業を体験する若者が増えている。働き手を求める農家に、野菜や米作りに興味を持つ希望者が弟子入りする格好で、体験後、新規就農するケースも出ている。背景には農業志向の高まりや、就職難の影響もあるようだ。

高梁市川上町、野菜農家三宅信弘さん(46)のホウレンソウ畑。三宅さんの指導の下、10代、20代の男女6人が1株ずつ丁寧に収穫し、併設の作業場で泥を落とし、袋詰めとしていく。農業を志し、会社を辞めて昨年11月から参加している岸本

働き手求める農家に弟子入り

佑太郎さん(23)は兵庫 里組む。 県朝来市は「土作り 体験者は、短い場合から出荷までみっちり は1カ月、長ければ1学びたい」と黙々と取 年ほど三宅さん方に泊



就職難影響、県内で就農も

まり込み、午前8時から 10代、20代の若者。就午後5時まで作業。宿泊 農希望者のほか、不況費や食費を引かれ、数千で高校や大学を卒業し円の日当を受け取る。こた後に就職できなかつれまでに約100人を送 た人々が多い。リストり出した三宅さんは「人ラ後の働き先が見つつか手不足なので助かる。農らない人もいる」と言葉関係の仕事を目標にする。

る子も多く、夢の実現に 倉敷市下庄の山崎正手を貸したい」と話す。 人さん(40)は、10人ほ農業の体験希望者と受 どを受け入れて米栽培培け入れ農家は、ホームベ や販売のノウハウを指ージの制作会社サンカネ 導。09年と10年には、ットワーク(東京都)が 体験を終えた20代の男調整している。同社によ 女2人が県内で就農しると、県内の農家は20 たという。

03年度に初めて1戸が 山崎さんは「農業は登録し、15人が体験。10 大変な部分も多いが、年度には、これまで77戸 育てる喜びも大きい。が受け入れ、141人が 農業従事者の高齢化や体験するまでに広がっ 減少が続く中、新たな担い手の育成につなげ

同社の山本和司社長 していきたい」と話して (59)は「体験者の大半は いる。(亀井良平)

ホウレンソウの袋詰めをする若者。さまざまな作業を通して農業を学